



① 地球環境問題への取り組み

1. 温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ・低炭素活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2016年度のCO₂排出量は、2015年度より減少しました。また、設備の経年劣化によるHFCの排出量が増加したため、CO₂以外の温室効果ガスの排出量は増加しました。

WEB 詳細は九州電力 > 関連・詳細情報 (P2参照)
> 温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

《 温室効果ガス排出量 》

単位：千トン-CO₂

	2014年度	2015年度	2016年度
CO ₂ (二酸化炭素)*1	153.3	147.4	139.9**2
CH ₄ (メタン)*1	0.1	2.7	0.0
N ₂ O (一酸化二窒素)*1	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	87.6	67.1	82.1
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	0.0	0.0	0.0
合計	237.2	217.3	222.0

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。

*1：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料の燃焼に伴う排出量)を除く。

*2：2016年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。

《 各種エネルギー使用量 》

	単位	2014年度		2015年度		2016年度		
		会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量	
電力	オフィス	百万kWh	42	23.5	41	22.8	41	23.5
	工場等	百万kWh	33	181.1	33	206.9	33	212.2
燃料	車両等 ガソリン等	千kl	45	6.9	45	6.7	45	6.9
	冷暖房用	千kl	7	0.1	8	0.3	8	0.3
	工業用 A重油等	千kl	12	1.2	10	1.1	9	0.8
	LNG, LPG	千トン	7	1.2	7	1.1	7	1.1
熱	蒸気等	百万MJ	3	42.4	3	43.8	3	42.9

*：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料)を除く。

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入

九電みらいエナジー(株)では、再生可能エネルギーや未利用エネルギーの積極的な導入・活用を進めています。具体的には、2016年6月から熊本県山都町では、鴨猪川から取水するかんがい水路を利用し発電を行う鴨猪水力発電所(出力1,990kW、2018年7月運転開始予定)や、2016年8月から鹿児島県指宿市では、当社が所有する山川発電所で使用し温度が下がった熱水を再利用する山川地熱バイナリー発電所(出力4,990kW、2018年2月運転開始予定)の建設を、それぞれ開始しました。

また、西技工業(株)は、佐賀県鹿島市において県営中木庭ダムの放流水を利用し発電する中木庭発電所(出力196kW)の営業運転を2016年5月に開始しました。この取り組みにより、2016年度は約580トン*のCO₂排出量を抑制しました。

*：2016年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。

《 設備導入状況 》

項目	会社数	総設備容量[kW]
太陽光発電	10	72,780
風力発電	3	64,390
地熱発電	1	5,000
水力発電	1	350
バイオマス発電	1	11,350
廃棄物発電	1	29,200
合計	17	183,070

《 設備導入・開発に取り組む会社(青文字は設備導入会社) 》

太陽光発電(12社)*1 ●西日本フロンティア工業(株) ●京隆アステック太陽光発電(株) ●(株)九電工 ●九電テクノシステムズ(株) ●光洋電器工業(株)*2 ●(株)キューベン*2 ●誠新産業(株) ●九電みらいエナジー(株) ●ニシム電子工業(株)*2 ●(株)電気ビル ●(株)キューデン・グッドドライブ東福岡 ●九電不動産(株)*2	風力発電(9社)*1 ●西日本フロンティア工業(株) ●鹿児島風力発電(株) ●奄美大島風力発電(株) ●西日本技術開発(株) ●(株)九電工 ●誠新産業(株) ●九電みらいエナジー(株) ●長島ウインドビル(株) ●串間ウインドビル(株)	廃棄物発電(1社) ●(株)福岡クリーンエナジー
	バイオマス発電(4社)*1 ●西日本フロンティア工業(株) ●(株)九電工 ●九電みらいエナジー(株) ●みやざきバイオマスリサイクル(株)	水力発電(3社) ●西日本技術開発(株) ●西技工業(株) ●九電みらいエナジー(株)
		地熱発電(2社) ●西日本フロンティア工業(株) ●九電みらいエナジー(株)

*1：グループ会社の子会社を含む。

*2：九州電力の研究設備として設置。

2. オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類の回収を徹底するため、グループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制にグループ一体となって取り組んでいます。

2016年度の保有量については、機器の更新等はあったものの、2015年度と同程度となっています。

《 オゾン層破壊物質保有量等 》

単位：kg

	保有量 排出量	2014年度		2015年度		2016年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	5	6,900	6	6,900	6	7,300
	排出量		0		0		0
HCFC	保有量	24	64,700	23	64,100	23	63,000
	排出量		1,400		400		1,000
ハロン	保有量	7	6,000	8	6,100	8	5,000
	排出量		0		0		0

単位：ODPkg

オゾン層破壊物質排出量* 30 10 20

*：各フロン類のオゾン層破壊係数ODP値を用いて、CFC-11重量相当に換算。

用語集をご覧ください

- 温室効果ガス
- エコドライブ
- HFC(ハイドロフルオロカーボン)
- CH₄(メタン)
- N₂O(一酸化二窒素)
- PFC(パーフルオロカーボン)
- SF₆(六フッ化硫黄)
- 再生可能エネルギー
- オゾン層
- フロン
- CFC(クロロフルオロカーボン)
- HCFC
- (ハイドロ)クロロフルオロカーボン
- ハロン
- オゾン層破壊物質
- オゾン層破壊係数
- CFC-11(トリクロロフルオロメタン)